

群馬建協

CCUS普及へ ロードマップ

群馬県建設業協会(青柳剛会長)は、建設キャリアアップシステム(CCUS)の普及・定着に向け、協力会社の技能者を含めて、登録から運用までの流れを明示した「ロードマップ」を作った。会長会社の沼田土建(沼田市)が先行して取り組む研修モデルを基軸に、いずれは県内全体の協会員各社に水平展開したい考えだ。

ロードマップによると、まずはCCUSに対する知識を底上げし、加入を促すための研修(オンラインまたはリアル)を開く。協会員(元請け)と協力会社(下請け)の双方を対象に、導入メリットや今後の見通し、申請・運用方法などを解説する。その後、アンケートを通じて登録予定時期やサポート希望などを把握し、必要書類を整える。次に、希望者向けに「事業者登録」の実務研修を開く。パソコンを持参してもらい、その場で実際に登録申請する。続いて、

同様に「技能者登録」の研修を進める。事業者、技能者の登録手続きが進んだ段階で、現場運用の実務研修に入る。元請け社員を対象に、運用のシミュレーションを行う。カードリーダーや通信環境などのインフラ整備、発注者への活用意向表明も並行して進める。

最終段階の運用開始に当たっては、各現場の状況に応じたルールを作成し、日々の管理の徹底、新規入場時の説明などに取り組む。

個社モデルを水平展開



モデルケースとなる沼田土建では、5月に第1ステップのオンライン研修を開催済みで、19日に事業者登録研修を開く。現時点で協力会社8社の参加を予

定している。同社はCCUSの立ち上げに合わせ、全国でもいち早く事業者登録を完了しており、既に追隨している協力会社も多い。秋ごろには肝心のポイントとなる技能者登録の研修を開き、10月以降の全社的な運用開始を目指す。

現状、事業者登録には30〜40日程度、技能者登録には30〜50日ほどの日数を要しているという。青柳会長は「登録に時間がかかり過ぎている。待っている間に規模の小さな工事は終わってしまう」と指摘し、登録業務体制の拡充を要望している。沼田土建では、県発注工事での活用を視野に、一部案件は前倒しで登録手続きを進める方針だ。

青柳会長が支部長を兼ねる群馬建協沼田支部では、2月までにすべての会員21社が事業者登録を完了している。今後、技能者登録料の補助を含め、沼田土建の試みを支部全体に広げる。協会本部に新たに立ち上げる「人材確保育成・キャリアアップ推進特別部会」とも情報共有しながら、全県的な機運を高める。

